



東大寺椿

奈良から始まる飛躍への道

須田剋太展

— 柔らかい精神とたくましい創造力 —

2026 9.26_(土) → 10.1_(木)



大洞観音仏頭

吹上生涯学習センター 10:00-17:00 (最終日16:00) 入場無料

主催：須田剋太展実行委員会 共催：鴻巣市・鴻巣市教育委員会 後援：朝日新聞さいたま総局・埼玉新聞社・東京新聞さいたま支局・株式会社 埼玉りそな銀行 問合せ：鴻巣市教育委員会 生涯学習課

同時開催

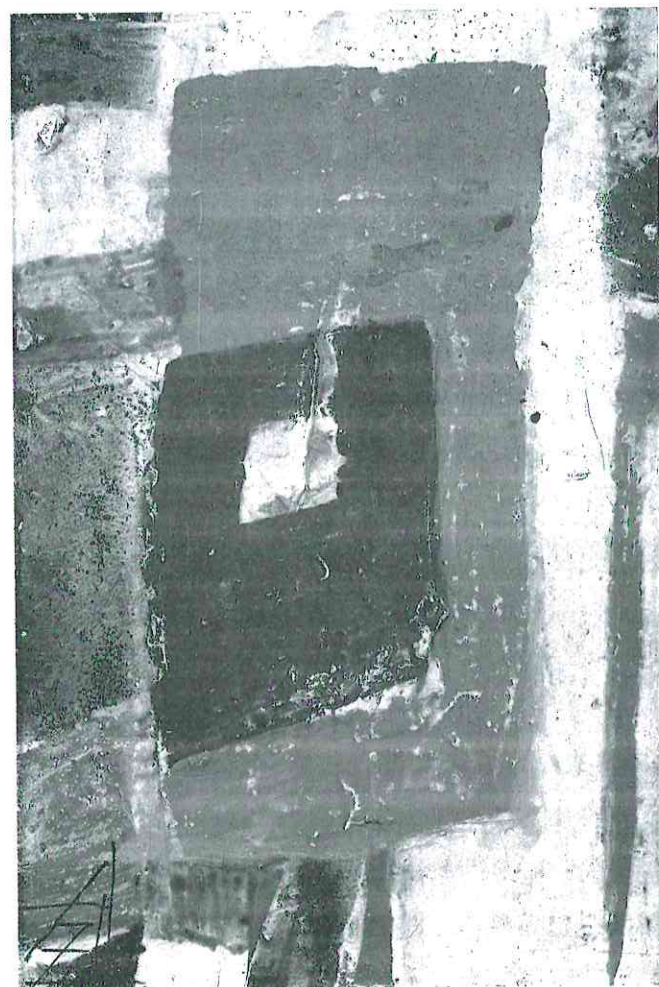
須田剋太 鴻巣市所蔵作品展 長島記念館 10:00-16:00

埼玉県熊谷市小八木1022
TEL 0493-39-2025





幕間



1962



奈良から始まる飛躍への道

須田剋太展

—柔らかい精神とたくましい創造力—

須田剋太は、知人から法隆寺の壁画の修復の話を知ると、大きく心が揺り動かされました。太平洋戦争が始まると、戦禍が拡大する前にその壁画を見ておきたいと関西に移住します。初め京都に短期間滞在しますが、後に画家・須田国太郎の案内で奈良を訪れると、その魅力に惹かれ以後約5年間奈良に住むことになります。国宝級の建築や仏像に満ちた奈良での生活が始まると、朝から夕暮れまでそれらを描く日々が続きました。古代の宮大工や仏師が創り上げたそれらの作品を目の当たりにして、剋太の芸術的感性はどんどんと磨かれていきました。奈良では、最初は新薬師寺の庫裏に住んでいましたが、その後出会った東大寺の管長・上司海雲の計らいで、当寺の観音院に住むことになります。上司は人間性の大変豊かな人で、剋太はその教えや助言から生き方の上で大きな感化を受けました。奈良で暮らした年月の中で、剋太は芸術的センスを大いに高め、自らの生き方も見つめ直し、飛躍への礎を築いていったのです。

戦後になると、剋太は後に妻となる岡田静の故郷である西宮へ移ります。敗戦後の日本には外国から抽象画が入って来ますが、剋太も抽象画の理論家・長谷川三郎に出会い、抽象画を描き始めました。以後その世界に没頭し、約20年間抽象画を描き続けます。また、長谷川からは道元の『正法眼蔵』を勧められ読み始めると、初めは難解でとまどいましたが、次第にその思想に惹かれていきました。こうして、抽象画の世界に入った剋太は自らの絵の世界を大きく深めていき、やがて再び具象画を描き出すと、その作品からは具象画と抽象画を折衷したような、剋太独特の画風が漂うようになってきたのです。

当展では、須田剋太の飛躍への土台を成した奈良に関わる作品や抽象画の作品を中心に展示します。剋太芸術の魅力を十分ご堪能ください（須田剋太研究会）。

